

令和8年度学校推薦型選抜

一般推薦

小論文

農学部 生物生産イノベーション科学科

令和7年11月29日（土）実施

10時00分～11時30分

開始前に以下の注意事項をよく読んでおくこと。

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
2. 「受験番号」は、解答用紙の受験番号欄に忘れずに記入すること。
3. この問題冊子には、1つの設問がある。
乱丁、落丁、印刷不鮮明の箇所があった場合には、申し出ること。
4. 解答は、必ず解答用紙の所定の解答欄に記入すること。
所定の欄以外に記入したものは、無効である。

(令和8年度 学校推薦型選抜) 小論文試験問題

(農学部生物生産イノベーション科学科)

【 問題 】

日本では令和4年に「みどりの食料システム法」が制定され、すべての関係者が調達、生産、加工・流通の各段階で環境負荷の低減に取り組むことになりました。環境負荷低減に向けた主な取組は以下の通りです。

<調達>

環境負荷低減に資する新たな技術や品種の研究開発、家畜排せつ物や食品残さ等の地域の未
利用資源の活用、廃熱等の地域エネルギーの活用

<生産>

堆肥を用いた土づくり、化学肥料・化学農薬の使用低減、秋耕や中干し延長など水田メタン
削減、施設園芸の省エネルギー化、バイオ炭の施用、生分解性マルチの導入

<加工・流通>

環境にやさしい農林水産物を用いた新たな商品の開発・需要の開拓、環境にやさしい農林水
産物の流通コスト削減に向けた流通の合理化

引用元：農林水産省 HP 資料「みどりの食料システム戦略施策活用ガイドブック（令和7年2月版）」

この中であなたが最も重要と考える取組を1つ選び、その理由について800字程度で述べなさい。

【出題意図】

「みどりの食料システム法」であげている3つの段階における環境負荷低減への取組は、日本における食料・農林水産業の生産力向上と持続性を両立するために重要である。生物生産イノベーション科学科では、このような取組に対して生物生産や生命科学の基礎と応用を通じた技術革新で対応することを目標としている。本試験問題では日本における食料・農林水産業の生産と環境負荷を考えた上で自らが重要とした取組について論理的かつ明確に述べる能力を問う。